

1 本年度の重点目標

自分の考えをもち、表現する生徒の育成  
 ～かかわりの中で自己選択・自己決定・自己表現の力を磨く～

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	単元において「対話」を位置付けた授業を展開し、生徒に自己決定・自己選択する場面を意図的に設定している。	A	育成を図る力を端的に示すことで、教職員の共通理解の深化を図った。各教科等をはじめ、学校行事等においても、「自己決定」、「自己選択」をねらいや評価項目に織り込むなどして、子どもたちの力をより伸ばそうとする姿勢が感じられた。対話を位置付けた授業については、他校の優れた実践などを参考に継続的に取り組んでいく必要がある。	A	A
	保護者や地域住民との対話機会を設け、学校経営方針の理解が図られている。	A	学校運営委員の皆さんやPTAとの対話機会において、学校の経営方針への理解をいただくとともに、子どもたちへの温かいまなざしを強く感じる事ができた。そのことが、学校の活力につながっている。地域行事への参加、様々な対話機会において顔の見える関係づくりと適時適切な情報発信に努めていきたい。	A	A
教育課程・学習指導	他教科やほかの領域との関連を意識しながら資質・能力の育成に努めている。	A	中学校における「教科の壁」を乗り越えるために各教科等領域を超えた力として「自己決定」「自己選択」「自己表現」という言葉を合言葉として、育てようとした。学校行事や総合的な学習の時間において子どもたちが見せる発信力が、どのような学びによって育まれているか、自分たちの取組に価値付けを図るために、今後も家庭・地域の方から話を聞いていく必要がある。	A	A
	意図的に対話場면을創出し、コミュニケーション能力の伸長を図っている。	A	授業のみならず集会等においても、生徒が主体的に発案し、試行錯誤しながら表現する機会を設定するようにしてきた。受け身ではない主体的な姿勢で表現できる子どもを育てたいという思いは教職員の総意となってきている。	A	A
	・単元において、ICTを活用している授業を展開している。 ・単元において、ICTを活用して「対話」する授業を進めている。	B	若手教員によるICT活用のワークショップを実施し、協働の雰囲気高めようとした。生徒のアンケートにおいて、タブレットをはじめとしたICT活用が自分の学習に有効であるという回答が多ことから、時代の急速な流れの中、苦手ながらも授業での活用を目指す教員の姿が見られる。より有効な活用方法について、教職員間の情報共有を進めていきたい。	A	A

	キャリア教育を通して生徒の自己実現に向けた指導を計画的に行っている。	A	キャリア教育で育む汎用的な能力の中でもコミュニケーション能力と社会形成能力に重点を置いて取り組んできた。コロナ禍でできなかった職場体験学習をはじめ、キャリア発達に欠かせない人との関りが生まれ始めていることから、地域の施設や人材のお力をお借りして、子どもたちの視野を広げていきたいと考えている。	A	A
	個別の教育的支援を必要とする生徒の指導・支援に向けて、視覚的な支援やスモールステップによる指導、肯定的・好意的な働きかけなど、特別支援教育の視点を踏まえた指導・支援を行っている。	A	特別支援学級在籍の生徒のみならず、通常の学級に在籍する生徒についても、配慮すべき個々の背景について定期的に共有して、指導・支援に当たっている。特別支援教育コーディネーターがこれまで高めてきた専門性を活用して、教員が指導・支援で迷ったときにも校内支援委員会のみならず、関係する教員で日常的に対話が行われている。	A	A
生徒指導	継続的・計画的に、生徒の他者を思いやる心情を養っている。	A	毎月の職員会議等において、生徒の実態を交流し、当該月に重点とする指導内容を確認しながら、生徒指導に当たっている。引き続き、家庭や地域との連携は欠かせない。	A	A
	責任を全うするとともに助け合うことの必要性をバランス良く指導している。	A	学級活動での指導を補完・充実させるため、生徒会活動や部活動において、「担い・認め合う」ことを基本に指導をしている。子どもたち個々の特性や背景を踏まえた指導・支援についても模索しながら進めている。	A	A
	心身の健康の大切さを指導し、通信の活用など、必要な働きかけを行っている。	A	保健便りを中心に適時啓発を行ってきた。また、ゲームや端末の望ましい使用について、外部講師を招聘するなどして啓発してきたが、今後も計画的・継続的に啓発を行っていく必要がある。	A	A
	生徒に進んで笑顔で挨拶するとともに、必要に応じて生徒に指導している。	A	率先垂範の姿勢の大切さを教職員で共有し、指導を行ってきた。挨拶ができる子どもが多いが、悩みや不規則な生活習慣に起因する心身の不調を訴える子ども散見されることから画一的ではないアプローチが求められる。	A	A
小中一貫教育	めざす子ども像を踏まえて、資質・能力の伸長に向けた指導・支援を行っている。	A	校区内の小学校教職員と顔の見える関係づくりが進むとともに、協働して子どもたちを育てようとする雰囲気が高まっている。小中一貫教育の効果には必ずしも即効性が感じられないことから、継続した取組と家庭、地域への情報発信がより必要と考えている。	A	A
その他	心身の健康や公私のバランスを意識しながら、内容や順番を工夫するなどして、仕事に向かっている。	B	全教職員が参画して、教育活動や業務の在り方についてアイデアを出し合いながら、改善に向けた努力を行っているが、教職員の実感として心身の余裕につながっていない状況である。	A	A

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- ・各評価項目に対する達成状況及び改善の方策については、適正に評価されている。
- ・PTAが中心となって企画、運営されたミニ運動会については、子どもたちだけではなく、保護者にとってもよい機会であった。今後体育祭の一部をPTA企画として取り入れることを検討していると聞き楽しみである。
- ・なぜ対話にICT（タブレット）が必要なのか。タブレットを使用しなくても対話や意見交流ができるのではないかと。苦手な生徒もいるのではないかと。
- ・教職員の業務軽減に向けて、学校として様々な努力をしていると思うが、学校だけでは限界がきていると思う。学校運営委員として協力できることがあれば力になりたい。